



地元高校生発！

小田原『街』めぐり逢いカプセル

～放課後のような甘いひとときを～

神奈川県立小田原東高等学校
総合ビジネス科 2 学年

小田原『街』めぐり逢いカプセル

～放課後のような甘いひと時を～

めぐり逢いカプセルとは

JR東日本と小田原市観光協会の共催である
「おだわらかプセル」の高校生オリジナル版。
その日の行き先をガチャガチャに託します。
ガチャガチャの中身は高校生がおすすめる
お店や場所の案内チケット（割引券等付き）
が入っています。
何が出るかはお楽しみ。一期一会の出逢いで
小田原の隠された魅力を発信します。



実施方法

対面型コイン式ガチャの導入

- ・設置場所：小田原駅 観光案内所
- ・運営体制：平日は案内所スタッフ、土日は高校生も担当。
- ・対話の仕組み：案内係が専用コインを「手渡し」で配布。
- ・おもてなし：コインを渡す瞬間の会話を入り口に、街の魅力を伝え、旅人との交流を深めます。



※小田原市観光協会様にもご協力いただいております。

目的・目標①

① 地域の課題解決：通過点から「過ごす『街』」への転換

平均滞在時間を延長！

箱根観光の中継地として素通りされがちな現状や、駅前（ミナカ等）・お城だけで完結してしまう観光導線を打破します。旅行者を一步奥の商店街やバス路線エリアへ誘うことで、観光客の滞在時間を延ばし、地域経済の活性化と公共交通の利用促進に貢献します。

目的・目標②

② 観光客への提供価値：旅の「隙間時間」をエモい体験価値に変える

隙間時間を活用！

日常の仕事に追われる20代後半～30代前半の働く世代に対し、特急電車の乗り換え待ち、出張での時間つぶしなどの「隙間時間」を有効活用した寄り道を提案します。洗練された商業施設にはない、高校生が日常で愛する「エモ温かいローカルな日常」に触れてもらうことで、かつての放課後のような心の解放感（ノスタルジー）を提供します。

目的・目標③

③ 教育・多世代交流：生きた関係人口の創出

一時的な消費を、一生のめぐり逢いに！

高校生が主体となり、観光客や地域店舗の店主の皆さまと直接繋がることで、一時的な消費で終わらない「人としての温かい繋がり」を生み出し、未来の小田原ファン（関係人口）を育てます。

スケジュール

PDCAサイクル：持続可能な関係性の循環

8月-9月

店舗への協力依頼
高校生が自ら店舗を訪問。ビジョンを伝え、共に街を盛り上げるパートナーを開拓。

P

10月

最終準備・PR
チケット制作や接客練習、機械操作の練習、SNS等での発信開始。窓口の設置準備。

D

11月

プロジェクト実施
駅案内所にて開始。土日は高校生が現場で直接おもてなし。

C

12月以降

振り返りと深化
利用者の声を集約。店主さんへのフィードバックを行い、持続的な繋がりへ。

A

「やりっぱなし」にしない。高校生の学びが街の資産に変わる仕組み。
実施後の振り返り（CHECK）を店主の皆様と一緒に行うことで、店主と生徒の絆も深まり、真の「生きた関係人口」が生まれます。

最後に

初年度の取り組みとしては結果が出ないかと思われそうですが、継続実施することにより、より良いものに改善していきたいと考えます。現時点の課題としては認知度の向上、協力店舗等の確保があげられます。発展的な取り組みとしてはまち歩きアプリ小田原さんぽに実装いただく等、提案・交渉していきたいと考えます。